

“鎌倉楽しむ会”

“も一度鎌倉”

本覚寺～妙本寺～長勝寺の散策

- ◆ 開催日 : 令和7年6月14日(土)
- ◆ 集合場所 : JR 鎌倉駅東改札口
- ◆ 集合時間 : 午前10時00分
- ◆ 解散時間 : 午後2時30分頃(長勝寺)
- ◆ 参加費 : 500円(資料代、保険料含む)
- ◆ 飲食費・交通費・拝観料などは個人負担

鎌倉駅／本覚寺／妙本寺／常栄寺／八雲神社／別願寺／安養院／
上行寺／大寶寺／妙法寺／安国論寺／日蓮乞水／長勝寺／(解散)

1. 本覚寺



- * 山号は妙巖山(みょうごんざん)。鎌倉江ノ島七福神の一つで、縁結びや商売繁盛の神様「夷神(えびすしん)」を祀る。室町時代の永享8年(1436)「日出(にっしゅつ)上人」によって創建された日蓮宗の寺院。もともとは天台宗系の夷堂があったが、日出によって日蓮宗に改め、**本覚寺**とした。
- * 二代目住持の「**日朝**(にっちょう)上人」は身延山久遠寺(くおんじ)の住持になった折に、本山に参拝できない人々のために、日蓮聖人のお遺骨を本覚寺に分骨、同寺が「**東身延**」と呼ばれる由縁となった。

- * 本堂は総檜造り七間四面の建物で大正八年(1919)に完成した。本堂右わきに祖師日蓮聖人の分骨堂があり、将軍徳川吉宗の孫で「寛政の改革」を実施した老中の「**松平定信**」真筆の「東身延」の扁額も伝わっている
- * 鐘楼の梵鐘は応永17年(1410)の銘があり、もとは上総・木更津八幡宮の鐘であったが、日出上人が同宮別当寺泉蔵寺での法論に勝ち、従者「石綿新左衛門」に持ち帰らせたということが伝えられている。その謂れの碑が明治31年建立されている。
- * 眼の病気を治してくれる寺として知られ「**日朝さま**」の愛称で親しまれている。日朝上人が眼の病気を患ったとき、法華経と自らの回復力によって治癒したというのが、その由来となっている。
- * 境内に建つ「夷堂」は、縁結びや商売繁盛の神様として参拝客で賑わっている。

2、妙本寺



- * 日蓮宗寺院。妙本寺の総門は江戸時代の四脚門で、門の右脇には「比企能員（ひきよしかず）」邸址の石碑が建っている。
- * 「**比企能員**」は頼朝挙兵以来の忠臣で、その養母・**比企尼**は頼朝の乳母（めのと）として、伊豆に配流された頼朝に二十年間生活の糧を送るつづけたことはよく知られていることである

- * 寿永元年（1182）8月、頼朝夫人「政子」が嫡男「頼家」を出産すると、**比企尼**以来の関係もあり、能員の妻（比企尼の娘）は頼家の乳母となる。
- * **頼家の成人後**、能員の娘「**若狭局**（わかさのつぼね）」は頼家の寵愛を受け、若君の「一幡（いちまん）」を誕生させる。ここで、頼朝に続いて二代将軍の地位を約束される「頼家」の外戚として権勢を増していく。
- * ここに、頼家の弟・「千幡（せんまん）」（のちの実朝）の乳母は北条政子の妹・「阿波局（あわのつぼね）」を擁立して幕府の実権を握ろうとする「**北条時政**」と対立する。
- * 建仁三年（1202）8月、頼家の病気を機に時政が、一幡・千幡による家督分割を決定すると、能員は病床の頼家と図って北条氏追討を画策する。しかし、それは北条氏の知るところとなり、時政は仏事と称して、能員を名越の私邸に招き謀殺する。
- * 比企一族は六歳の一幡を擁して、北条義時率いる北条勢と戦ったが敗れ、比企一族はここに滅亡していくのです。建仁3年9月2日のことだった。
- * 乱後は千幡が「**実朝**」となり将軍宣下を受けて三代将軍となり、兄の頼家は将軍を廃され伊豆の修善寺に幽閉され、翌元久元年（1204）7月、北条氏の刺客によって誅殺されてしまう。

- * 妙本寺の開創は、比企能本（ひきよしもと・比企能員の末子）を開基とし、日蓮聖人の愛弟子「日朗（にちろう）上人」を開山として、文應元年（1260）と伝わる。また一説には日蓮聖人が佐渡配流を赦免され鎌倉へ帰ってきた文永11年（1274）比企能本が私邸を喜捨した時に始まるとも伝わる。
- * 日蓮聖人が身延に隠棲すると「日朗上人は、ここを拠点に布教活動を盛んに行い、やがて、妙本寺は日朗門下の拠点として布教活動を広めていった。
- * 日蓮宗の格式高い寺として代々の住持は昭和22年まで、東京・池上本門寺の住持を兼務する両山兼帯と称していた。
- * 本堂は天保年間（1830-44）の建築で、間口五間、奥行六間、さらにお堂の周囲に幅2.7mの回廊をめぐるし正面に一段高くなった3.6m幅の外陣を設けている。
- * 境内には、**比企一族の墓**、**一幡の袖塚**、**若狭局の墓**、加賀前田家三代利常の生母の逆修塔、竹御所の墓などが祀られている。
- * また、若狭局が身を投じたという「**蛇形**（じゃぎょう）の井」があり、その若狭局の祟（たた）りを鎮めるための「**蛇苦止堂**（じゃくしどう）」という、お堂が静かな佇まいを見せている。

3、常栄寺



- * 日蓮宗、創建は江戸時代の慶長11年（1606）で、開山は日詔上人。「ぼたもち寺」の呼び名で親しまれている。
- * その謂れは、文永8年（1271）9月12日、捕らえられた日蓮聖人が裸馬に乗せられ小路を引きまわされる途中、この地に住む栈敷の媼が日蓮聖人にゴマの餅を捧げたという話が伝わる。
- * 日蓮聖人は龍ノ口の法難で奇跡により処刑を免れたことから、「頸（くび）つぎのぼた餅」「御首継ぎのゴマの餅」といわれ、九月の御法難会には、今でもゴマをまぶした餅が供えられる。

4、八雲神社



- * 社伝によれば、永保年間（1081-84）、新羅三郎義光が兄・八幡太郎義家の奥州攻め（後三年の役）の助勢に赴く途中に、この地に立ち寄った際、疫病に苦しむ人々の姿を見て、京都祇園社（八坂神社）の祭神を勧請したのが始りという。
- * 応永年間（1394-1428）、佐竹屋敷に祀られていた祠が合祀され、佐竹天王と称した。義光の子孫である佐竹氏は代々、源氏、足利氏、豊臣秀吉に仕え、「天下六大名」の一つに数えられた。

- * その後も「祇園さま」と崇められ、江戸時代も徳川将軍より永楽5貫の神領が安堵され、代々の徳川将軍から朱印を賜った。
- * 明治維新で、鎌倉祇園社（祇園天王社）から「八雲神社」へ改称。大町の鎮守として村社に列格された。
- * 宝蔵庫には江戸時代の御輿四基、宝剣、銅鏡などガラス越しに拝観できる。

5、上行寺



- * 日蓮宗。正和2年（1313）の創建で、開山は日範（にちばん）上人。もともと京都本圀寺末。名越の妙法寺の法華堂を移築したものといわれている。本堂の表欄間には龍の彫り物、格天井（ごうてんじょう）には花鳥の絵が描かれている。
- * 病（癌）に特効のある瘡守稻荷（かさもりいな）を祀る稲荷堂と、鬼子母神を祀る薬師堂がある。
- * 万延元年（1860）、桜田門外で大老・井伊直弼を襲撃した水戸浪士の一人「広木松之助は、ここに匿われていたが、切腹して果てたといわれ、境内に墓がある。

6, 別願寺



- * 宗派は「時宗」。藤沢山清浄光寺（遊行寺）末。開山は覚阿公忍。弘安5年（1282）公忍が「一遍上人」に帰依し、真言宗から時宗に改宗し、能成寺から寺号を「別願寺」とした。鎌倉における時宗の中心となり、室町時代は足利家一族が信仰し、足利公方足利家代々の菩提寺として栄えた。
- * 天正19年（1591）には徳川家康からも寺領を寄進され寺勢を誇ったが、江戸時代以降、次第に衰微していった。
- * 境内の「足利持氏」の供養塔といわれる大きな石の宝塔は当時の栄華を物語っている。（市指定文化財）

7, 安養院



- * 宗派は浄土宗。祇園山安養院田代寺という。開山は願行。開基は「北条政子」。政子は「源頼朝」の菩提寺として笹目に、嘉禄元年（1225）、長楽寺を建立。しかし、正慶2年（1333）鎌倉幕府滅亡の時に焼失し、また、この地にあった「尊観上人」開山の「善導寺（浄土宗）」も戦火で焼失し更地となった。その跡に長楽寺を移し、二寺は併合された。安養院は政子の法名。しかし、またもや江戸時代の延宝8年（1680）寺は再び全焼。

* この全焼した跡地に、頼朝に仕えた「田代信綱」が建立したという「田代観音堂」を比企ヶ谷から移して「安養院田代寺」とし再建し、現在に至っている。

* 境内には、定めた日数以内に願いごとを叶てくれる「日限地藏（ひぎりじぞう）」が祀られ、その奥に「尊観上人」がお手植えと伝えられる「榎の巨木（市天然記念物）」があり、樹齢約7百年といわれている。



- * 本堂の裏手には、総高 2m90cm のおおきな「宝篋印塔」（国重文）があり、徳治3年（1308）7月の銘が刻まれている。鎌倉に現存する年記銘のある宝篋印塔では最古なもので、善導寺開山の「尊観上人」の墓と伝えられている。
- * その脇にある小ぶりの宝篋印塔は「政子の墓」（供養塔）と伝えられ「二位政子/御法号/安養院殿/如実妙観/大禅定尼/嘉禄元年/乙酉七月十三日」の銘文が陰刻されている。
- * 平家の猛将・上総の悪七兵衛平景清（あくしちびょうえい・かげきよ）の娘といわれる「人丸」の供養塔も祀られている。

8, 大寶寺



- * 平安時代の後期、奥州清原家の内紛に介入した「源義家」は、「清原清衡」を「藤原清衡」として「奥州藤原王国」の土台を作り上げてやった。これが歴史上「後三年の役」といわれることとなる。
- * この「後三年の役」の援軍として京より馳せ参じたのが義家の弟・「新羅三郎義光」であり、その時の館がこの地であったという。乱の鎮定後は「常陸介」を任じられ「佐竹郷」を領して常陸北東部に勢力を伸ばし地盤を固めた。そして、この大功は信仰する霊神の加護であったと屋敷地に神社を建てたと伝わり、多福稲荷となっている。孫の代になり「昌義」が「佐竹氏」の名跡を名乗ることとなった。

- * 鎌倉時代には頼朝の御家人となり、この地一帯の屋敷地を改めて拝領した。室町時代になり、応永6年（1399）佐竹義盛が出家し、屋敷地に「多福寺」を創建した。しかし、「義盛」入滅の後の佐竹氏は鎌倉の地を離れ、多福寺は廃寺となってしまふ。
- * その廃寺を日蓮宗の「本覚寺」を開山した「日出上人」は文安元年（1444）日蓮宗の「大寶寺」として再興したのです。

9, 妙法寺



- * 日蓮宗。山号は楞嚴山（りょうごんざん）創建は日蓮が安房の国から鎌倉に来てはじめて小庵（草庵）を結んだ、建長5年（1260）とする。そして「松葉ヶ谷（まつばがやつ）の法難」の舞台となった地の一つとなっている。
- * その後、日蓮はこの草庵跡に法華堂を建て、やがて「本圀寺」と称されたというが、これが日蓮宗最初の精舎（寺院）であるという。
- * 四世日静上人（にちじょうしょうにん-足利尊氏の叔父といわれる）の代の貞和元年（1345）に、「足利尊氏」は日静上人を京に招き、光明天皇の勅命によ

り「本圀寺」を京都六条堀河（現在山科にある本圀寺の前身）に移したため、鎌倉の本圀寺は荒廃に至ってしまった。

- * そこで、その跡地に日静上人の弟子で「護良親王」の遺児「日叡上人（にちえいしょうにん）」が延文2年（1357）に再興した寺院が、妙法寺の起こりといわれている。
- * 日叡上人の母は「南の御方」と言われ、護良親王が東光寺に幽閉された時に付き添って親王の身の回りを世話した女性で、後醍醐天皇に仕えて「新按察典侍（しんあぜちのすけ）」と呼ばれる方で、親王が誅殺された時身ごもっており、のちに出産したのが「楞嚴丸」で、出家して「日叡」と称した。
- * 本堂は文政10年（1827）に肥後藩主細川家が寄進した立派な総檜造りである。また仁王門の先には見事な「苔の石段」が続く。さらに、お堂の左側に「ソテツの古樹」がある。これは日叡上人がお手植えされたと伝えられ、樹齢は六百年という。

10、安国論寺



- * 寺域一帯を松葉ヶ谷といい、建長5年（1253）、安房から鎌倉に入った日蓮が初めて庵を結んだ場所として知られる。日蓮聖人は、およそ20年をこの地で過ごし、その聖跡が寺となった。
- * 日蓮聖人が鎌倉に入った当初、道場とした「御法窟（ごほうくつ）」又は「日蓮岩屋」という岩窟がある。「立正安国論」はここで書かれた。

* 熊王尊殿の石段を登ると「日蓮聖人」が日々、富士山に向かって法華経を唱えたという富士見台がある。さらに山道をいくと「松葉ヶ谷法難の際に山王権現の使いとされる白猿（しろざる）の導きで難を逃れたという「南面窟」がある。

* 境内には、日蓮聖人の桜の杖が根付いたといわれる妙法桜（ヤマザクラ）やサザンカ、カイドウの巨木があり、いずれも市の天然記念物になっている。

11、日蓮小水



* 日蓮聖人が安房から名越（なごえ）切通し超えて鎌倉に入られた時に、この辺りで水を求め、杖を地面に突き刺すと、ここから清水が突然湧きだし、以降日照りの時も枯れることなく湧き続けているという。「新編鎌倉志」には「鎌倉五名水」の一つとして書かれている。

* 鎌倉五名水に挙げられているのは、

- ① 梶原太刀洗水
- ② 金龍水（現在存在せず）
- ③ 佐助銭洗弁財天（銭洗水）
- ④ 不老水（現在存在せず）
- ⑤ **日蓮乞水**

12、長勝寺



* この「長勝寺」も松葉ヶ谷の法難という伝承があるという。日蓮聖人に皈依した「石井藤五郎長勝」が、伊豆に流されていた日蓮聖人が鎌倉へ戻った時に庵を結んで寄進した。これが長勝寺の起源となった。

* 境内に入ると、**高村光雲**先生が作成した巨大な日蓮聖人が、四天王に守られた見事な御姿の**立像**が目に入る。四天王も素晴らしい。

* 背後に建つ帝釈堂は、日蓮聖人が帝釈天のお使いである白猿に助けられたことから、帝釈天ゆかりの霊場とされている。

* 毎年2月11日の行われる「**大國禱会成満祭**（だいくくとうえじょうまんさい）」は、よくマスコミ・テレビにも放映される鎌倉の厳寒の風物詩となっています。

* この「**大國禱会成満祭**」（国家安穩、世界平和を祈願する）は、下総中山の「**中山法華経寺**」での百日間の荒行を厳修された僧たちが、満願を祈念し、頭から冷水を浴び、ここで百日の行が終了したことを報告する行事でもあるとのことです。



完